

都市型社会課題への発信力を育成するクロスサービスラーニングプログラム

背景 ○都市型社会問題

本校が位置する世田谷区は、高齢化、外国人増加、都市型災害対策などの**都市型社会問題**に対して、「地域・住民が主体となる街づくり」、「区民がいきいきと活動・交流する場づくり」を掲げて対策を進めており、保健福祉や教育など様々な領域と連携した施策や**地域住民の区政等への参加**が求められている。

○2020年東京オリンピックに向けた取組み

2020年**東京オリンピック・パラリンピック**における、世田谷区の「2020年に向けた世田谷区取組み～東京2020大会後を見据えて～」の指針に基づき、観光やスポーツ、国際、福祉、教育などの観点から自治会、NPO団体、大学等と連携のもとで**ボランティアの拡充**などの取組みを進めており、**地域住民の参加**による活動の高まりが期待されている。

実施体制



令和二年度の目標

- ①コンソーシアムを活用した生徒への活動支援、連携事業、ならびに高大連携の促進を図る。
- ②地域課題への関心を高め、地域社会と積極的に関わろうとする人材を育成する。
- ③探究プログラムの体系的な構築と他教科との横断的な関連性を高め、論理的な思考力など21世紀型能力・資質の育成を図る。
- ④グローバルプログラムとローカルプログラムのクロス化により探究活動の質の高度化を図る。

取組状況

- ・コンソーシアム連携委員会を通じて、グループの個々の活動に応じた地域協働学習支援員を設置。
- ・昭和女子大学主催の高校生向けプログラムを企画・実施。また大学の専門機関を高等部生徒の活動のため活用した。
- ・生徒が地域への関心を高め、地域の現状を把握して活動にすすめるよう、高1前期に「地域探究」を実施。地域への理解を高められるようにした。
- ・高校3年での活動を試行、探究の学びをキャリア形成に活かす教材開発を進め、中高6年間のカリキュラムモデルを構築した。
- ・SDGsを軸にした「SDGs開発授業」を高校1年生で推進。開発授業は冊子にまとめて継続的に運用した。
- ・グローバルプログラムは課題解決のための実践活動を地域で考案・実施した。グローバルな活動は感染症対策のため停滞しているが、地域での活動にシフトし、学びを深めている。

成果と課題

- ・コーディネーター・管理機関を軸にコンソーシアムの役割分担を明確化した。そのもとで地域協働学習実施支援員をグループテーマごとに依頼し、支援員の専門的な面での支援により、地域課題把握のための活動確保や地域の人材の掘り起こしをすることができた。高校1年では後期からの活動となったが、コロナ禍であってもグループ内のほとんどが、何らかの実践を通じて区内の団体・企業と関わることができた。今後は生徒の地域志向を高めることが課題である。
- ・LABO研究の実践活動は多様な取組みが実施された。LABO2のジェンダーかるたは好評で、区内の教育機関への頒布を目指している。LABO研究の地域性をより高め、コンソーシアムによる連携をローカル・グローバル両面でさらに充実したものにしていき、地域への還元ができるようにしたい。
- ・高3の「キャリアビジョン」の活動が始まり、中高6年間の活動を体系的に進めることができた。この6年間の活動を実りあるものにするため、ポートフォリオによる生徒の学びの把握とスキル・行動目標による自己評価を継続的に活用し、本校の生徒像を総合的・体系的に育成するプログラムを運用していきたい。
- ・今年度は大学が企画主体となる高校生向けイベントを実施した。次年度はこれをさらに進め、大学の授業、大学の施設などを高校生向けに開放し高大連携を深めていきたい。